

ことばの教育プロジェクト

社会を動かすことばの教室活動の研究

日常の接触場面から楽しい授業を創る、その本質

ーわたしのレシピをかくとびらー

【お題】

日本に来て3か月程度の留学生が、次のように言って来ました。
「せんせえ、髪を切りたいです。でも、日本でどうしたらいいですか。」
さて、この留学生の悩みを解決できる教室活動をデザインしましょう。

- 講師 溝部 エリ子氏（北九州YMCA） 妹川 幸代氏（愛和外語学院）
- 日時 2014年3月1日（土） 13時～16時
- 場所 九州大学西新プラザ 大ホール（福岡市早良区西新2-16-23, 地下鉄西新駅 徒歩5分）
- 内容 第Ⅰ部 授業公開 : 【お題】をもとに行った両講師の授業を視聴する
第Ⅱ部 公開対話 : 参加者と両講師が授業について意見を交換する
- 定員 80名, 趣旨に共感される方はどなたでも参加できます
- 料金 500円
- 申込 下記のメールまで, 氏名と住所をご記載ください
mail: fukae@aiwa.ne.jp (深江)
件名を「ことばの教育プロジェクト参加」としてください

□参加に際して

【お題】にチャレンジしてみませんか。「今のわたしの」授業を持ってきてくださったら、自身の授業と講師の授業を対比させながら深く考えることができると思います。メモ程度で構いません。また、第2部で公開してもよい授業案があれば、添付でお送りください。お送りいただいた授業案については、両講師からのコメントを添えてお返し致します。

お問い合わせ先

愛和外語学院 深江 新太郎
〒812-0054 福岡市東区馬出1-15-37
TEL 092-632-6748
FAX 092-632-8540

ことばの教育プロジェクト

ぼくはどんな授業をやりたいのだろうか？

そのときのぼくは、一人称として存在するこれを読んでいるあなたです。

だから、あなたはどんな授業をやりたいのだろうか、ということもできるでしょう。

人は、まるで投企されたように社会に存在し、組織に属することを義務づけられます。

ぼくたちがいなければならない場所には、あらかじめ制約のようなものが課せられていて、それに従うことを求められたりもします。

けれど、ぼくたちはそんななかで、なにかをやろうと試みます。いや、やりたいと。

ことばの教育プロジェクトは、そんなあなたとオーダーメイドの鉛筆をつくります。

一人の学習者に、一つの教室に、一つの学校に、新たな何かに挑もうとするあなたが主人公としてのぼくになれるように、そんな物語がかける鉛筆です。

それは、きっと情熱をかたちにできる鉛筆です。

深江 新太郎

ことばの教育プロジェクトは、次のような背景と目的から生まれました。

■背景

九州においては、各日本語学校の枠を超えた自律的でありかつ汎用性の高い学びの場が存在しない。自律的であるとは、現場の日本語教師自らの手で作ったという意味であり、汎用性が高いとは、現場の日本語教師の実践から一般性を導き出せるという意味である。開けた学びの場の不在は、閉塞感につながり、新しい挑戦を生み出す契機を喪失させる。それは、日本語学校が社会性を失っている一因となっている。

■目的

九州における日本語教師の実践的かつ理論的な学びの場を、現場の日本語教師の技術と知性で創ることが目的である。その結果として、教室活動が社会性を持ち、日本語学校や日本語教室が社会性を持つこと、つまり地域社会の異文化の共生に寄与することが目的である。